

「地域との協働による障がい者・
高齢者等要援護者支援のための
防災シミュレーション訓練」

2011年度

防災教育チャレンジプラン実践報告

(高津養護学校・たかつ地域ネットワーク推進会議)

川崎市高津区向ヶ丘

高津養護学校

地域ネットワーク推進会議の目的・構成

- 目的:本校の地域支援機能の充実と地域との連携と協働の活性化を図り、本校児童・生徒の地域生活充実のため、保護者をはじめ、本校が所在する地域・通学地域の教育・福祉の関係諸機関、団体等との情報交換や情報を共有し、共通課題解決への連携と協働を発展・推進させることを目的に設置する。
- 構成
 - (1)校長
 - (2)PTA代表
 - (3)福祉行政関係者
 - (4)教育行政関係者
 - (5)地域社会福祉協議会職員
 - (6)地区社会福祉協議会青少年福祉部会代表
 - (7)町会・自治会等住民代表
 - (8)福祉団体・NPO等福祉関係者
 - (9)福祉ボランティア代表
 - (10)その他の関係者
 - (11)本校職員

2010年度 高津養護学校 地域ネットワーク推進会議の事業概要

- (1) 学校開放事業に関すること
(学校施設開放 ・学校公開講座)
- (2) 障がいの理解と特別支援教育の理解の推進に関すること
- (3) 地域資源の涵養と人材の育成に関すること
(「わくわくスタジアム」などボランティア養成)
- (4) 障がい児・者の地域生活充実のための環境づくりに関すること
(防災シミュレーション訓練(高津区協働事業))
- (5) 関係諸機関との情報共有と課題解決のための連携と協働に関すること
- (6) その他 地域の教育と福祉に関すること

これまでの実施内容・成果⁽¹⁾

保護者・支援者向け防災学習会

- 第1回7月8日(金)19:00~22:00(福祉施設での開催)
- ・夜間開催で障がい児の父親の参加が中心(12名)
- ・東日本大震災での避難所の状況が災害ボランティアより報告があった。(精神障害等のある方へ配慮できたかとは言いがたい等の状況について)
- ・本人(身障者)の参加あり、
具体的な議論ができた。
(事前登録制度の問題点や
二次(福祉)避難所の周知について)
- ・**発達障害者対応福祉避難所の
必要性が議論された。**
(今回の震災により自閉症等発達障害者の
避難生活の困難性が多く指摘された。
保護者として行政の対応を待つのでは
遅いのでは。自前で確保する手もある。)



これまでの実施内容・成果⁽²⁻¹⁾

保護者・支援者向け防災学習会

- 7月23日(土): 第2回防災学習会(親子防災キャンプ)(16:00~20:00 87名参加)

- ・内容: 親子夜間避難所体験

- ① 避難所設営・体験
- ② 避難テント設営・体験
- ③ 避難ルート確認・食料買出し
- ④ ボトルキャップ踏み
- ⑤ ダンボールトイレ作り
- ⑥ 手回しライト・ラジオ操作



- ・成果: **昨年の2倍強の参加者数**であった。地域の成人者(障がいのある)とその家族(36名)も参加した。障がい児向けプログラム(キャップ踏みや手回しライト)は好評であった

親子夜間避難所体験(1)

(防災キャンプ①設営体験②テント設営)



親子夜間避難所体験(3)

(④ボトルキャップ踏み⑤ダンボールトイレ作り⑥手回しライト・ラジオ操作)



これまでの実施内容・成果⁽²⁻²⁾

■ 9月14・28日(水):第3・4回

保護者・支援者向け学習会(10:00~12:00 計22名参加)

■ ・内容:

- ①東日本大震災時の障害児者や施設等の状況と保護者・支援者の役割(夏休みのボランティア活動を通して)
- ②DIG(図上訓練)を通して、地域の防災環境を学ぶ
(地域理解と障害の理解啓発)
- ③川崎市・横浜市の災害時要援護者支援制度について

■ ・成果:

- ①宮城県でのボランティア活動体験からリアル感のある報告ができた。
- ②居住地域での関係作りに関心が深まった。
- ③発達障害児の災害時避難所について感心が深まった。
- ④日ごろの訓練の大切さについて感心が深まった。

今年度の実施内容・成果⁽²⁻¹⁾

防災ボランティア養成講座

10月22日(土):9:00~16:00(11名参加)

- 災害時における障がい者理解の実際と3.11時の川崎市障がい者施設の状況報告(障害者施設職員から)
- 3.11被災地における避難所の状況報告(災害ボランティアから)
- 災害時における避難所の設営と運営(川崎市高津区避難所運営マニュアルから高津区防災対策担当者が説明)
- 避難所運営ゲーム(HUG)の実施と体験

今年度の実施内容・成果⁽²⁻²⁾

- 10月29日(土)9:00~13:00

防災シミュレーション(避難所設営訓練)

参加者:90名(児童・生徒・保護者35、一般20、
行政・学校等25、ボラ10)



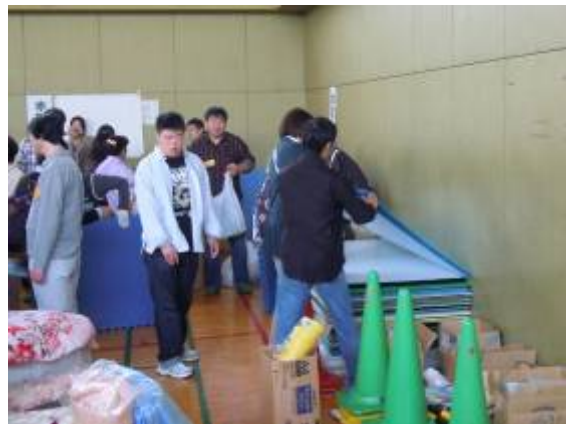
避難所設営訓練(受付)



◎参加者90名と昨年(120名)に比べ、少なかった

◎地域行事が前週の雨天により日程変更、重なったためと考えられる

避難所設営訓練(設営)



◎5回目ということで経験者が多く順調にすすんだ

◎PSボードを使用して、プライバシーを守るとともに、要援護者に過剰な刺激を与えないよう配慮した設営を目指す

◎地域との方々と意見を出し合い設営を進めた

避難所設営訓練

(体験①かんたんテント設営)



◎初めてのチャレンジ

◎ブルーシートと物干し竿によるかんたんテント設営

◎子どもたちにとっても興味津々！大人は一所懸命！

◎地域の方々にも好評であった。

避難所設営訓練

(体験②足湯でリラックス！)



- ◎ボランティアによる足湯サービス
- ◎要援護者とのコミュニケーションに最適
- ◎コップ1杯のお湯で出来るよう工夫している
- ◎本校卒業生もボランティアとして参加している

避難所設営訓練

(体験③トイレ設営！)



◎ダンボールトイレから車椅子で入れるトイレまで、様々な種類の簡易トイレを設営体験

◎地域の方々は特に重要視した訓練となった

◎現実的には最も不足することが予測された

避難所設営訓練

(情報提供は掲示板で！ 静かな避難所を目指す)



- ◎高齢者や障害者に配慮した静かな避難所を目指す
- ◎情報提供はボランティアによる掲示板とメガホン
- ◎スピーカーや放送機器使用しない

避難所設営訓練

(要援護者支援ボランティアの活躍)



◎ボランティアセンターを設定し、受付から設営補助、要援護者支援、広報活動などボランティアが主導しておこなった。

◎学生や民生委員、本校卒業生など多くの方がボランティア体験に参加した

◎実際の活動に準じた形で、ニーズの読み取りやグループ化などをおこなった

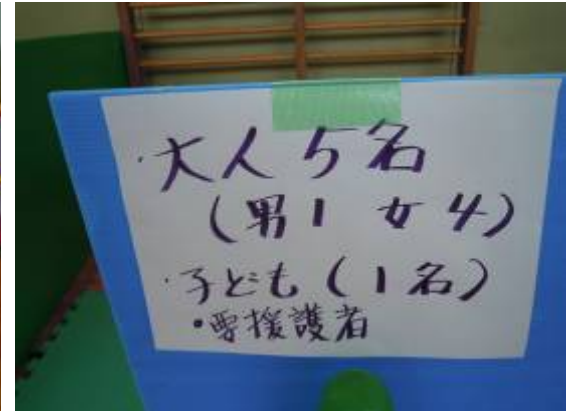
◎教職員もボランティアの一員として、説明者ではなく、協力して取り組むことが出来た

◎地域自治会防災担当者には有意義な体験となった



避難所設営訓練

(教員とボランティアによる聞き取り調査)



◎避難者のニーズを探るため教員とボランティアが協力し聞き取り調査をおこなった

◎ニーズの緊急性の程度により、家族ごとに分類し、「要援護者トリアージ」的な活動とした。ここでは特別支援学校の専門性が活かされた活動となった

◎ボランティアもニーズ把握が可能になった

要援護者支援に配慮した避難所設営

- 可能な限り家族ごとに仕切り板(PCb)を使用する。
- 静かな避難所を目指す。(スピーカー不使用)
- 避難者の孤立化を防ぐため足湯サービスを実施し、コミュニケーションの機会とする。
- 子どもには、好きなおもちゃなど持参させる。可能なら遊び場の設置も検討する。
- 支援専門員(教員)とボランティアが協力して、避難者に聞き取り調査をする。(緊急度調査)
- 同時にできる限りの情報を避難者に伝える。
- 特別な支援が必要な方は、保護者・支援者とともに別の場所に移動していただく。(二次避難所的発想)
- 避難者のうち可能な方にはボランティアをお願いする。
- できる限り多くのトイレが設置できるよう工夫する。

今抱えている課題

- 地域の障がい児者や高齢者をはじめとする災害時要援護者を日常支援しているボランティアや施設職員等(支援者)とのさらなる協力関係強化に努め、安全・安心な地域づくりに資するため、広報活動を充実したい。
- 学校主体の取組のため、地域の要援護者の支援者には参加に対し迷いがあったようである。地道な地域活動として、継続した取組が必要である。
- 今後の事業実施について、町会・自治会など地域とのよりいっそうの協働と連携が必要である。
- 学校の活動ではなく、地域活動として定着を図れるような方向性を模索する。

【その他の活動 (東日本大震災に関連して)】

- 高等部生徒による被災地障がい者施設授産品の販売(9月に地域高校の文化祭に参加して)
- 被災地障がい者施設(宮城県内)でのボランティア活動(5月初めから1月まで本校教職員を中心に35日間延べ260名が参加)
- 被災地障がい者施設職員をお呼びして「防災講演会」を開催(1月21日)



【ご協力ありがとうございました】

ありがとう